

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【田島小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全体的には、算数において基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れたが、国語においては今一步であったと考える。講じていく必要がある。特に主語・述語の関係については、一部の学年で市の平均正答率を上回ることができたが、苦手としている学年もある。「ドリルパーク」やミニテストを活用して習熟を図るなど重点的に取り組み、R6年度の全国学力・学習状況調査等で検証したい。
思考・判断・表現	校内研修で読解力向上に向けて授業の工夫・改善に取り組んでいることもあり、国語においては「思考・判断・表現」において望ましい成果が得られたので、次年度も取組を継続させていく。しかし、算数においては複合図形の面積の求め方を考えたり、割合の特性を生かして量を求めたりすることに課題がみられたため、国語で得られた読解力向上に向けた取組を算数など他教科にも広げていく。
主体的に学習に取り組む態度	5・6年生の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上を維持する。一方、教科への興味関心については、国語・算数の肯定的な回答の割合が60～70%程度にとどまっているため、ICT等を活用して「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を実現し、児童の主体的に学習に取り組む態度を育てていきたい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語の「知識・技能」に関する領域において、R4年度の自校の結果より3pt向上させる(同一集団の経年比較)。当該学年で習得する漢字を確実に習得させる。(自校テストで80%以上)	⇒ 「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等を活用しながら、日常的な漢字の指導を充実させるとともに、児童が家庭での学習を含め自主的・計画的に学習に取り組むよう支援する。
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査自校結果より国語・算数において「思考・判断・表現」を昨年度の自校結果より3pt向上させる(同一集団の経年比較)。	⇒ 読解力向上を目指して主に国語の授業の工夫・改善に努め、ICTを活用しながら、つなげたり比べたりして読む指導を増やす。また、全校児童に音読集を用意して、業前の音読タイムや国語の授業、家庭学習などで音読に取り組み、語彙や読書経験を増やす。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を85%以上にする。	⇒ 児童が主体的に課題解決に取り組んだり、友達と協力して学習したりする場を設定する。その際、Teamsやミライシード等を活用して、自分の考えを表現したり、友達と意見を交流したりする機会を増やす。

<小6・中3>(4月～5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語の「知識・技能」に関わる領域において、R4年度の結果より-4ptの下降となった(同一集団の経年比較)。また、市の平均正答率との差と比較しても-2ptとなり、目標値に届かなかった。「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等を活用し、当該学年で習得する漢字について習熟を図った結果、自校テストの結果に成果が表れた。	C
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査自校結果より「思考・判断・表現」において、昨年度の自校結果より国語で+4pt、算数で-6ptとなり(同一集団の経年比較)、国語においては目標を達成したものの、算数では目標値に届かなかった。R5年度さいたま市学習状況調査において、国語の「読むこと」の領域では、昨年度の自校結果より+4ptであった(同一集団の経年比較)。	B
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%となり、目標値を達成した。これは、R4年度の肯定的な回答の割合83%を上回っている。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語-7pt、数学-2ptであった。国語の敬語についての問題で解答類型を見てみると、尊敬語・謙譲語の区別がついていない児童や、無解答の児童が多かった。
思考・判断・表現	国語の「読むこと」の領域において、複数の資料を結び付けて解答する問題では、一方の資料だけで解答を選択してしまっている児童の割合が多かった。国語を中心としての読解力を高める授業の工夫・改善を図るとともに、「つなげて読む」「比べて読む」「重ねて読む」といった活動を重視したい。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答の割合は87%で目標値に達した。今後も、児童が主体となって学習を進める授業の工夫・改善に努める。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語-2pt、算数+6ptであった。国語の筆の運び方を確認する問題において課題がみられた。算数では、時刻の求め方に課題があった。教科への興味関心については、国語・算数とも肯定的な回答の割合が70%以上と高い傾向がみられた。	小4	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査の3年生との経年比較で国語-1pt、算数±0ptであった。国語においては、主語と述語の関係についての理解に課題がある。教科の興味関心については、国語・算数とも肯定的な回答の割合が約60%と昨年度の3年生との経年比較で下降がみられた。
小5	国語では、主語・述語の関係についての理解が深まっていることが分かる。算数では、小数・分数の減法に課題がある。年度当初に課題としてとらえていた敬語の理解については、さいたま市の平均よりも高い正答率を示している。引き続き、国語の知識・理解の向上に向けて取り組んでいく。	小6	R5年度さいたま市学習状況調査「思考・判断・表現」において、R4年度調査の5年生との経年比較で国語+5pt、算数+6ptであった。読解力向上に向けた様々な取組の成果であると考えられる。教科の興味関心については、昨年度の5年生との経年比較で、肯定的な回答の割合が国語で-6pt、算数で+8ptと、大きな変化が見られた。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 全国学力・学習状況調査の結果から、敬語の意味の理解に課題がみられたため、普段の生活の中で相手や場に応じた言葉遣いを意識させるとともに、尊敬語・謙譲語・丁寧語といった敬語のしくみについて理解を深める学習を進める。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 校内研修を通して、読解力向上を目指した国語の授業を研究するとともに、児童が複数の文章や資料を読んで思考したり話し合ったりする経験を増やす。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし